様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ５ 月 ２７ 日現在

機関番号：３５４１２
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2012～2014
課題番号：２４５３０９７８

研究課題名（和文）スイス時代の未刊行資料の解読によるフレーベル幼児教育思想の形成と展開の研究

研究課題名（英文）Study on Froebel's unpublished Material and the Formation of Froebel's educational Thought on Infants

研究代表者
小笠原　道雄（OGASAWARA, MICHIO）

広島文化学園大学・学芸学部・教授

研究者番号：１００５３６１２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　4,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、フリードリヒ・フレーベルの幼児教育思想の形成と展開を、とくに、フレーベルのスイス時代(1831-36)の教育活動を未刊行資料の調査、収集，解読を以下の古文書館での作業を通じて行つた。１）国立ルッェルン古文書館、2)国立ベルン古文書館、3)ベルン市民図書館。
フレーベルの幼教育思想は，1834年、ベルン州政府の要請によるブルクドルフ「貧民学校」の設立構想をスタートとして、「私立」で「就学前教育の段階」だけがカントンから認められる領域であった。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to make the Formation of Froebel's educational Thoughts on Infants, especially, on Froebel's educational Activities(1831-36) in Switzerland, achieved by reading and unpublished material (including 1)Staatsarchiv Luzern,2)Staatsarchiv des Kantons Bern,3)Burgerbubliothek Bern).

研究分野：社会科学，教育学

キーワード：Fr.フレーベル　幼児教育思想　ベルン・貧民学校　未刊行資料　ルッェルン古文書館　ベルン古文書館　ベルン市民図書館

１．研究開始当初の背景

(1)Fr.フレーベルの就学前教育思想やその教育理論は、一般に、1826 年刊行の主著『人間の教育』において論究されたものとされてきた。だが詳細な題名には、『F.W.A.フレーベルによって記述された教育と教授と指導の術。第一巻。少年期の前期まで』と記されており、当然本著が数巻の著作になる予定であった。だが第二巻は出版されなかった。極めて個性的で難解な書物として評価されたからである。

(2)しかしながら，近時、未刊行の資料の解読によってフレーベルの中期の活動、すなわち、スイス時代(1831~36)の教育実践や州政府との交渉過程の中でフレーベルの就学前教育思想やその教育理論が形成されてきたことがスイス(J.エルカース)、ドイツ(H.ハイラント)そして日本(小笠原道雄)の共同研究の中で判明してきた。

２．研究の目的

(1)本研究は Fr.フレーベルの就学前教育やその教育理論の原点が，フレーベルのスイス時代(1831~36)の教育実践，特に，ベルン政府の依頼によるブルクドルフの貧民学校での諸実践から導出されたことを解明することにある。

(2)今回特に、スイス現地での国立古文書館の 2 館並びに，ベルン市民図書館で州政府とフレーベルの交渉過程等を直接、公文書等を調査・収集・解読して行った。スイス現地 3 館の訪問は日本人として始めてであった。

３．研究の方法

(1)本研究は、スイス・ベルン州国立古文書館、ベルン市民図書館、ルッエルン国立古文書館並びにベルリン国立図書館、ベ ルリン陶冶史研究図書館、バート・ブランケンブルクフレーベル博物館所蔵の未刊行資料の調査・解読によってその原点を解明する。

(2)スイス各古文書館の特徴とそこでの調査、収集した資料は以下の通りである

①ルッェルン国立古文書館
本古文書館の特色は、系譜学が充実していることである。本古文書館所有のフレーベルに関する 1930 年から 1836 年の諸資料(公文書)のすべてを撮影した。フレーベルに関するヴァルテンゼーの施設に関する一次資料が公文書として保存されている。今回の公爵フェレンベルクに関する諸資料は本国立古文書館所有の家族史関係の未刊行資料からのもで，実に貴重である。

②ベルン国立古文書館(ベルン大学図書館付設)
本館の特色は，特に、36 巻に及ぶヘルベチア共和国芸術並びに科学省の「公報」からの諸資料が完備していることである。L. ゲッペルト編『カントンベルンに関するフレーベルの諸活動』は本館の 277 の資料をもとに編纂されたものである。フレーベルに直接関係する資料は、記号 PA 377/8(カントンベルン 官房刊)全 35 冊である。今回の調査で、オリジナル全 35 冊を丁寧に調査した。「ブルクドルフのヴァイゼンハウスにおける本学園の公示」が監督官庁の官房名と秘書名で「1836 年 5 月 24 日ブルクドルフにて」と記され、見事な花文字の手書き「公示」の最下段の右に、官房名のサイイン、左に本公示を手書きした秘書官名が書かれていた。

③ベルン市民図書館
カントン・ベルンの私立学校に関して伯爵フェレンベルクからの書簡を中心に整えられている。フレーベルに関する 447 点の資料を収集した。

４．研究成果

フレーベルの幼児教育の構想は，スイス移住にともなうヴァルテンゼーの「子ども施設」(1831)からヴィリザウ学園を経て，ベルン州政府の依頼によるブルクドルフ「貧民教育施設」の設立と初等教育教員のための補習コースの指導へと展開し、1834 年ブルクドルフの孤児院の指導の依頼に展開する。この間フレーベルは 1833 年 10 月 20 日、「カントン・ベルンの貧民学校の計画」を書簡の形式で，ベルンのキリスト教国民教育連盟会長の州顧問官シュナイダー宛書いている。これらの錯綜した経緯を経て、ベルン政府の要請の中で、貧民学校の設立という課題は，フレーベルの学校教育構想を拡大させ、その体制のゴールとしての提示が 1836 年ブルクドルフの「孤児院における初等学校の陶冶計画」に結実し、それをフレーベルは「基礎学校あるいは(予備)小学校」とも呼んでいた。この「基礎付け学校」がフレーベルの幼児乃至就学前教育の原点となった。ここでのフレーベルの貧民学校計画に対する根本思想は，人間の教育一般に対することが、同様に、国民教育や貧民教育にも妥当するという思想で貫徹されている。しかしながら，カントン・ベルンでは内乱による多数の貧民が続出し、その対応はカントンにとって喫緊の課題であった。これらカントンの実態を勘案して提示されたのが「基礎学校の計画とブルクドルフのヴァイゼンハウゼの公示」である。本計画は実に重要な

もので，その後のフレーベルの就学前教育の全体像、つまり、発達段階(第一段階(4歳から6歳)、第二段階(6歳から8歳)、第三段階(8歳から10歳))を基本に、その各々の諸活動の内容が具体的に説明されている。この計画は、ヴァルテンゼー学園の前段をなすもので、同時に、ブルクドルフ孤児院内の初等教育案と重なるるものである。

このようにこの段階までは，フレーベルは初等教育と接続する「基礎付け学校」(予備学校)を模索していた。しかし以下の事情がその実現を阻む。

(1) 外的要因として、スイスにおける公教育全体が，Ph.E.フェレンベルクの支配力が強力で、結局，フレーベルの構想する諸プランは、公立外の「私立」で、しかも小学校段階を含まない領域、つまり「就学前教育の段階」だけが残されていた分野、あるいはカントンから認められる領域であった。

(2)内的要因としては、結局，ドイツのカイルハウから移住したフレーベルは、宗派問題と絡み合いながら、外国人、異邦人として処遇されたのである。

このような環境の中で，フレーベルの『人間教育』にかける情熱、確信をカイルハウの仲間が財政的にも精神的にも支えるのである。さらに重要なことは，遊戯による保育の原点をフレーベルがブルクドルフ孤児院で遊んでいる孤児を観察して発見したことである。この観察から獲得された，＜遊び＞における法則性の発見は，フレーベルの「教育遊具」(教具)への展開の原点となるものである。

いずれにしても、ブルクドルフ時代はフレーベルの活動の一つの頂点であった。この時代、三つの教育施設が活動していた。バーロップが指導するカイルハウ、ミッテンドルフと甥のフェルディナントのもとにおけるヴィリザウ、最後にフレーベル自身のもとでのブルクドルフの包括的な教育の場である。

今回、これらの諸点がスイス現地での未刊行資料の調査・収集・解読から確認された。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計　3　件）

小笠原道雄、「思想研究の鳥瞰図-フレーベルの未刊行資料の調査、収集、解読から」、教育哲学学会誌『教育哲学研究』、査読有、第110号、2014,70-93.

小笠原道雄、「明治期(1868～1912)日本におけるフレーベル主義幼稚園受容の研究」、広島文化学園大学学芸学部紀要、査読有、第5号、2014、1-9.

小笠原道雄、「未刊行資料の解読によるフレーベル幼児教育思想の形成と展開―スイスにおけるフレーベルの教育活動(1831-36)を焦点化して―」日本ペスタロッチー・フレーベル学会誌『人間教育の探求』、査読有、第27号、2015、１-25.

〔学会発表〕（計　1　件）

①小笠原道雄、未刊行資料の解読によるスイス時代フレーベル幼児教育思想の形成と展開に関する考察、日本ペスタロッチー・フレーベル学会第32回大会、2014年8月30日、鎌倉女子大学

〔図書〕（計　3　件）

①小笠原道雄 野平慎二共訳、東信堂、ヘールヴァルト著、『フレーベルの晩年』、2014、214.

②小笠原道雄監訳、福村出版、M.ロックシュタイン著、『遊びが子どもを育てる―フレーベルの＜幼稚園＞と＜教育遊具＞』、2014、99.

③OGASAWARA,Michio;Pädagogik in Japan und in Deutschland -Historische Beziehungen und aktuelle Probleme,Leipziger Universitätsverlag,2015,s.300

〔産業財産権〕

○出願状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計　　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

６．研究組織

(1)研究代表者

小笠原道雄　(OGASAWARA,Michio)

広島文化学園大学・教授

研究者番号：10053612

(2)研究分担者:なし

(　　)

研究者番号：

(3)連携研究者：なし

(　　)

研究者番号：